

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520349

研究課題名(和文) 地理的変異に基づくスペイン語の統語研究

研究課題名(英文) Syntactic studies based on geographical variation of Spanish

研究代表者

高垣 敏博 (TAKAGAKI TOSHIHIRO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：00140070

研究成果の概要(和文)：スペイン語圏都市でアンケート調査を実施することにより、スペイン語文法における重要な統語的テーマの地理的変異を明らかにし、統語研究に生かすのが目的である。それまでの6年間にわたる調査・研究に加え、新たにこの3年間の調査により、スペイン9地点、中南米12都市での調査を終え多くの事実が明らかになった。この成果は、本研究のHP<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/kenkyu/bunpo/varigrama/>で見ることができる。

研究成果の概要(英文)：This project aims at obtaining diatopic linguistic data on Spanish syntactic variation based on questionnaire The data offered in 9 universities in Spain and in more than 10 Latin American cities are accumulated in our data bank <http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/kenkyu/bunpo/varigrama/> have served to elucidate various grammatical problems of the language.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：スペイン語学

科研費の分科・細目：人文学・言語学

キーワード：スペイン語・統語論・方言学

1. 研究開始当初の背景

- (1) スペインのスペイン語、中南米のスペイン語で、あるいはそれぞれの地域でスペイン語の文法には大小さまざまな文法事項(人称代名詞、再帰文、叙法、所有表現、前置詞など)で表現方法が

異なることは知られていたが、広大なスペイン語圏(スペインを含め23の国と地域)の地域ごとの差異について説明がなされるような体系的な先行研究はなかった。スペインの1地域、中南米の一定の国々、あるいは、スペイ

ンと中南米を大まかに比較するなどの研究に限定されてきたのが現状であった。

- (2) スペイン語文法で問題になることが多いテーマについてはある程度知られていたが、これを統一したかたちで分析・報告されたことはなかった。各国・各地域での使用実態、および、同じ基準でそれぞれを比べることが全体を俯瞰する可能を与えてくれると考えた。

2. 研究の目的

このような状況で、スペイン語文法で問題となりやすいテーマをまとめた統一アンケートを用いて、現地で実施、データを収集。その後、地理的広がりを考慮しながらデータを解析するという目的を設定した。これは一方では、スペイン語方言地理学の新たな試みを模索することを意味し、他方では、分担者らが個々に興味をもつ文法現象について新たな視点を提供するものとの期待があった。

3. 研究の方法

スペインおよびスペイン語が話される中南米（メキシコを含む）の大学などを中心に学生に対して100文をこえるアンケートを実施する。アンケートは1時間を基本とし、被験者が集合する。得られた結果を収集、統計化する。本研究のHPにこれを掲載し、データが揃い次第個々の文法研究に供する。

広いスペイン語圏の文化背景は大きく異なり、比較的均質なスペイン国内での調査とは違い、中南米では、気候、風土、民族、習慣、日常生活すべての面で統一した調査は望めないと予想された。実際、現地の大学などに信頼がおける、コーディネータの存在が不可欠となった。調査は、まず、このような世話役を探し、援助を求め、学生に趣旨・意義を説明し、当日の準備、調整、実行を任せられるかどうかにかかっていた。現地アンケート調査の方法論がしだいに確立していった。

4. 研究成果

今期3年で、それ以前の6年にわたる調査、データ収集を経て、現在中南米11都市、12大学を訪問し、それぞれにて約20人の学生にアンケートを実施。被験者の数は250人を超え、回収したデータは膨大な量になった。これにスペインでの実施結果と合わせると450人分に達する。得られたデータは一覧

化として上述HPに掲載、自由に検索できるようにになっている。研究分担者がそれぞれ文法・意味・語用論などのテーマについて分析、研究会、学会、報告書、論文などの形で公表している。なお、代表者はバルセロナ大学 Emma Martinell 教授の退官記念論文集に本研究の概要を本年度掲載する予定である。

En sus láminas que me "falta ver que".

País	Universidad	Alumnos	Profesores	Alumnos	Profesores
España	Barcelona	100	10	100	10
	Madrid	100	10	100	10
	Valencia	100	10	100	10
México	Guadalajara	100	10	100	10
	Monterrey	100	10	100	10
	Puebla	100	10	100	10
Argentina	Buenos Aires	100	10	100	10
	Córdoba	100	10	100	10
	Rosario	100	10	100	10
Colombia	Bogotá	100	10	100	10
	Medellín	100	10	100	10
	Cali	100	10	100	10
Chile	Santiago	100	10	100	10
	Valparaíso	100	10	100	10
	Temuco	100	10	100	10
Perú	Lima	100	10	100	10
	Cusco	100	10	100	10
	Arequipa	100	10	100	10
Venezuela	Caracas	100	10	100	10
	Maracaibo	100	10	100	10
	Valencia	100	10	100	10
Cuba	Havana	100	10	100	10
	Santiago de Cuba	100	10	100	10
	Camagüey	100	10	100	10
Paraguay	Asunción	100	10	100	10
	Encarnación	100	10	100	10
	Itapúa	100	10	100	10
Uruguay	Montevideo	100	10	100	10
	Punta del Este	100	10	100	10
	Salto	100	10	100	10
Bolivia	Sucre	100	10	100	10
	Cochabamba	100	10	100	10
	La Paz	100	10	100	10
Ecuador	Quito	100	10	100	10
	Cuenca	100	10	100	10
	Guayaquil	100	10	100	10
Nicaragua	Managua	100	10	100	10
	León	100	10	100	10
	Matagalpa	100	10	100	10
Costa Rica	San José	100	10	100	10
	Cartago	100	10	100	10
	Puntarenas	100	10	100	10
Panamá	Panamá	100	10	100	10
	Colón	100	10	100	10
	Tuvalu	100	10	100	10
Honduras	Tegucigalpa	100	10	100	10
	Comayagua	100	10	100	10
	Yamoro	100	10	100	10
El Salvador	San Salvador	100	10	100	10
	San Miguel	100	10	100	10
	La Unión	100	10	100	10
Paraguay	Asunción	100	10	100	10
	Encarnación	100	10	100	10
	Itapúa	100	10	100	10
Uruguay	Montevideo	100	10	100	10
	Punta del Este	100	10	100	10
	Salto	100	10	100	10
Bolivia	Sucre	100	10	100	10
	Cochabamba	100	10	100	10
	La Paz	100	10	100	10
Ecuador	Quito	100	10	100	10
	Cuenca	100	10	100	10
	Guayaquil	100	10	100	10
Nicaragua	Managua	100	10	100	10
	León	100	10	100	10
	Matagalpa	100	10	100	10
Costa Rica	San José	100	10	100	10
	Cartago	100	10	100	10
	Puntarenas	100	10	100	10
Panamá	Panamá	100	10	100	10
	Colón	100	10	100	10
	Tuvalu	100	10	100	10
Honduras	Tegucigalpa	100	10	100	10
	Comayagua	100	10	100	10
	Yamoro	100	10	100	10
El Salvador	San Salvador	100	10	100	10
	San Miguel	100	10	100	10
	La Unión	100	10	100	10

(調査の文法項目一覧例)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

① 高垣敏博、スペイン語の ser 受動文—活動動詞をめぐって、東京外国語大学論集、査読有、81号.2010, 285-308.

② Hitoto Ueda et al., Método general de lematización con una gramática mínima y un diccionario óptimo. Aplicación a un corpus dialectal escrito, Isabel Moskowich-Spiegel Fandiño, Begoña Crespo García, Inés Lareo Martín, Paula Lojo, Sandino (eds.) Visualización del lenguaje a través de corpus. 査読無, 2010, 919-932, Universidade da Coruña.

③ Hiroto Ueda, Antonio Ruiz Tinoco,

Factores determinantes del *leísmo* de persona en español según los resultados de encuestas diatópicas, 査読有、*Lingüística Española Actual*, 31, 2010, 147-177.

④高垣敏博、スペイン語の“ser 受動文”一定形と不定形、東京外国語大学論集、査読有、79号、2009、225-246.

⑤Hiroto Ueda, Propuestas para la enseñanza-aprendizaje del español en el ámbito universitario”, con Antonio Ruiz Tinoco, Didáctica, Lengua y Literatura, Publicaciones Universidad Complutense de Madrid 21, 査読有、2009、373-397.

⑥高垣敏博、スペイン語統語現象の地理的バリエーションについて(2)ーラテンアメリカ5カ国での調査結果から、査読無、スペイン語学研究 23, 2008,99-118.

⑦福嶋教隆、The mood in the appositive clause preceded by el hecho de que in Spanish, 査読有、*Lingüística Hispánica* 31, 2008,1-22.

⑧Ueda, Hiroto、Análisis dialectométrico del léxico variable español: Interpretación taxonómica de resultados, en *El español de América*, 査読有、*Actas del VI Congreso Internacional de “El español de América”*, 2008,813-822.

[学会発表] (計4件)

①高垣敏博、スペイン語の“ser 受動文”ー活動動詞をめぐって、SELE 2010 (日本スペイン語学夏期研究セミナー)、福岡大学セミナーハウス、2010年9月1日～3日

②高垣敏博、日本語とスペイン語の受動文、東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門第3回研究会、2010年12月18日。

③高垣敏博、スペイン語の“ser 受動文”ー一定形と不定形、SELE 2009 (日本スペイン語学夏期研究セミナー) 滋賀県長浜市。

2009年8月27日～29日

④上田博人、高垣敏博、Antonio Ruiz Tinoco、第15回ラテンアメリカ言語学会 (XV Congreso Internacional de ALFAL, 2008年8月18日-21日, Montevideo, Uruguay) におけるワークショップ: 『スペイン語の語彙バリエーション』 (Proyecto: Variación Léxica del Español) における発表 『スペイン語の統語バリエーション』 (“Variación Sintáctica del Español”).

[図書] (計6件)

①高垣敏博、東洋書店、「食」のスペイン語、2010、208

②Toshihiro Takagaki, *Cilengua*, San Millán de la Cogolla, Spain、El dativo en la construcción doblemente pronominal con verbos intransitivos de movimiento: Un estudio contrastivo del japonés y el español、Elena de Miguel et al. eds. *Fronteras de un Diccionario: Palabras en movimiento*, 2009、409-432.

③高垣敏博、NHK出版、スペイン語単語帳、2009,191

④Hiroto Ueda, Toshihiro Takagaki, Antonio Ruiz Tinoco, John Benjamins, *Lexical Variation of Urban Spanish* (Yuji Kawaguchi et al.) *Corpus analysis and variation in Linguistics*, 2009, 223-238.

⑤福嶋教隆、大修館書店、第105節. スペイン語、(梶茂樹、中島由美、林徹・編) 事典 世界のことば 141、2009、428-431.

⑥高垣敏博、東洋書店、1冊目のスペイン語、2008,167.

[その他]

ホームページ等

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/kenkyu/bunpo/varigrama/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高垣敏博 (TAKAGAKI TOSHIHIRO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：00140070

(2)研究分担者

ルイズ・ティノコ アントニオ

(RUIZ TINOCO ANTONIO)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：80296889

(3)連携研究者

上田博人 (UEDA HIROTO)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：20114796

(4)連携研究者

宮本正美 (MIYAMOTO MASAMI)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：20131477

(5)連携研究者

福嶋教隆 (FUKUSHIMA NORITAKA)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50102794